

令和6年7月31日

逢妻地域会議
会長 都築 幸雄 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和6年1月17日に逢妻地域会議から受けた『（仮称）ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

逢妻地域会議からの答申に対する検討結果

	答申内容	【目指す姿について】 逢妻地域においては、高齢化が進行するなか、地域活動での「つながり」がより一層求められている。そのため、めざす姿について「妥当である」と考える。 ・逢妻地域には、伝統文化の棒の手や、逢妻女川などの自然の魅力があり、子どもたちにもその魅力を伝えるとともに、地域に愛着を持ってもらうきっかけとすることは重要だと考える。よって方向性は妥当。 ・「人と人とのつながり」を深めるには、スポーツも効果的だと考えるので、地域でスポーツ活動をしやすい環境があるとよい。 ・コロナ禍で地域内の「つながり」が希薄になってしまったので、逢妻地域内でも「つながり」を意識した活動が必要。
1	市の考え	ご意見のとおり、「つながり」については、多様な「人と人」「世代と世代」「人と地域、自然」とのつながりを通じた「気づき合い」「認め合い」「学び合い」が重要と考え、「(仮称)ミライ構想」に掲げています。 なお、今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称)ミライ実現戦略2030」において、注力する視点として、①「こども」起点でまちづくりを考える。②誰もが「つながり合う」まちづくりを進める。③人を支える「まちの基盤」を作る。を掲げ、本市が持つ誇るべき多様な地域性や価値、豊かな担い手を生かし、御指摘いただいた自然や伝統文化・歴史のほか文化芸術、スポーツの魅力を活用することを取組の方向性として検討しています。

2	答申内容	【まちづくりの基本的な考え方について】 まちづくりの基本的な考え方について、「賛同」する。逢妻地域では、「変える」ことと同時に、文化や自然、地域内のつながりなど、今あるものを生かすことも重要であると考えます。 ・逢妻地域では、今後まちづくりを進める自治区等の地域組織が意識を変え、積極的に若者と関わるようにすることが必要と考えるため、賛同する。 ・逢妻女川などの自然や伝統文化、自治区の行事はこれまで地域で大切にしてきたので、これらを生かして地域の「つながり」を広めていくことが必要。 ・「変える」ことと同時に、自らが「変わる」という意識が大切だと考えるので、「変わる」という言葉を入れてみてはどうか。 ・「変える」とは、具体的にどのようなことを指すのか、わかりやすい例があるとよい。 ・いろいろな世代からの「変える」についての提案、情報があるとよいので、ヒアリングやアンケート等を行える機会があるとよい。例えば学生、新成人、主婦、高齢者等。
	市の考え	「(仮称)ミライ構想」においては、チェンジ・チャレンジの思考とともに、まちづくりの基本的な考え方である「『ないものを補う』から『あるものを生かす』発想へ」等を市民の皆様と共有しながら取り組むことが必要と考えています。 また、まちづくりの基本的な考え方、「見方を『変える』」「思考を『変える』」「行動を『変える』」の3つの『変える』を掲げており、これまでの在り方を当たり前とせず、常に考え方を柔軟に変えていくとともに、一人ひとりが主体的に挑戦や行動に一步踏み出せる環境づくりを目指すことが必要であると考えており、「(仮称)ミライ構想」の本文に記載させていただいております。 なお、総合計画の策定に当たり、地域会議での諮問答申のほか、こども会議や学生・外国人の方との意見交換、子育て世代を中心としたまちづくりミーティングや中間報告会等を開催し、市民の皆様から広くご意見を頂いておりますが、策定後においても様々な方との意見を踏まえ、施策の見直し等を行っていく考えです。

3	答申内容	【(仮称)ミライ実現戦略2030の方向性(素案)について】 地域活性化のためにはこども・若者世代の地域への「愛着・誇り」が不可欠だと考えられるため、この横断的な目標に「賛同」する。 ・逢妻地域においては、二十歳のつどいに中学生ボランティアに参加してもらうなど、若者が地域と関われる機会を大切にしている。その目的は、子どもの頃から地域活動に参加することで地域に愛着を持ってもらうことであるので、この目標と合致する。 ・逢妻地域には看護大学があり、自治区の行事等にも参加していただいている。若い世代に地域活動に関わってもらう工夫が今後とも必要だと考えている。 ・「人を支える基盤(まち)」視点の中に、先進技術も加えてはどうか。 ・地域の高校生に地域活動への参加を呼び掛ける機会がないことが課題だと感じている。市全体として高校生に地域活動に参加してもらえる工夫があるとよい。 ・逢妻地域では近い未来国道155号豊田南バイパスが完成する予定となっているので、地域の新たな都市基盤として利便性を生かしたまちづくりをしていきたいと考えている。
	市の考え	本市は多様な地域や歴史文化、芸術、自然等の資源を有しており、市民一人ひとりが愛着や誇りをもって、これらの魅力を次代を担うこどもたちにつないでいくことが大切であると考えています。 なお、「(仮称)ミライ実現戦略2030」において、注力する視点として、①「こども」起点でまちづくりを考える。②誰もが「つながり合う」まちづくりを進める。③人を支える「まちの基盤」を作る。を掲げ、若い世代を含むこどもたちが多様な場で、多様な人と世代とつながり多様な経験ができるまちづくりを進めることを重視したいと考えています。 また、「人を支える「まちの基盤」をつくる」として、各地域が一定の自立をしながら連携していくことが重要であると考えており、地域の都市基盤を生かしたまちづくりに向けて、道路沿線の土地利用を含め検討を進めていきます。

	答申内容	【その他第9次豊田市総合計画の策定に求めることなど】 ・総合計画はまちづくりの方向性を示す重要な計画だが、市民にはあまり認知されていないので、完成したら分かりやすいパンフレットの作成など、市民に広く周知する工夫をお願いしたい。 ・今後さらに進行する人口減少や高齢化を念頭に置いた計画としていただきたい。 逢妻地域内には公共交通機関を利用しづらい地域もあるため、高齢者向けに移動支援策を検討いただきたい。
4	市の考え	策定に当たり、地域会議での諮問答申のほか、こども会議や学生・外国人の方との意見交換、子育て世代を中心としたまちづくりミーティングや中間報告会等を開催し、市民の皆様から広くご意見を頂くとともに、計画について知っていただけるよう努めています。 しかし、御指摘のとおり市民の皆様へ情報を届ける・伝えることが不十分であると認識しており、戦略的な情報発信について「(仮称)ミライ実現戦略2030」の施策にも掲げ、積極的な発信に取り組んでいきたいと考えています。 なお、第9次総合計画については、「人口減少」「人口構造の転換」を前提として、交通の在り方を始め、社会環境の変化に応じて必要となる取組を検討してまいります。